

# 漁況海況予報事業<sup>※</sup>

阪本 俊雄・竹内 淳一

吉村 晃一・武田 保幸

渡辺勇二郎

調査船「わかやま」浜口英雄他5名

## 目 的

本県沿岸及び同沖合の海況と本県沿岸漁業の漁況をモニタリングして、海況と漁況に関する調査研究を行なう。同時にこれらの情報を漁業関係者ならびに関係機関に提供して操業と漁業経営の合理化に資する。

## 方 法

昭和61年度漁況海況予報事業実施方針（水産庁）による。

## 結 果

1. 海況の概要 潮岬南における黒潮の中心部は以下のように、4～7月は潮岬南約15～30湊を小

年 月	1986 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1987 1	2	3
前半	30C (15)	20C	20N	20N	20C	15N (10)	45N	90Nw	55A	50A	70A	100A
後半	15C	30D (25)	20N (20)	25C (10)	20D	50N	85Nw (20)	60Nw (70)	40A	80A (100)	70A (70)	50A

黒潮の潮岬沖合離岸距離(湊)  
A、C、N、D、Wは黒潮流路形

( )、「わかやま」の観測

きざみな変動をして8～9月前半には10～20湊と著しく接岸し、9月後半～3月には40～100湊に大きく離岸した。

7月に都井岬沖に発生し東遷して来た冷水渦は9月後半には紀伊水道に係り、上記のように黒潮は50湊と大きく離岸したが、これの東遷速度は約2.5湊/日と遅く、9月後半～10月には黒潮本流は熊野灘陸岸に沿って北上する形となり、紀伊水道には潮岬沖から派生した左遷環流が著しく発達した。11月下旬に冷水渦(暖水性)は潮岬沖を通過、熊野灘に抜けて、12月に大型安定化した。以上の黒潮変動により陸棚上100m深の沿岸漁場水温は、4～7月には、潮岬周辺を除いて、14～16℃と昇温はなかなかみられなかった。しかし、8～10月には紀伊水道側は16～20℃と昇温した。熊野灘ではこれらの間はすべて13～16℃の低温であった。12月以降は潮岬、紀伊水道沖合の流れは南向きに変わり、1～3月の沿岸100m深漁場水温は一様に15℃の単調な海況となった。

## 2. 漁況の概要

内海マダイ 1985年と同じく不振。1984年異常低温による加入規模低下が考えられる。黒潮離岸年毎に漁獲は増加する傾向にあるが、1985年級の加入する1987年漁況が注目される。

※ 漁況海況予報事業費による。本事業報告は「昭和61年度漁況海況予報事業結果報告書」として別途報告。

外海マダイ 春期の黒潮の小規模変動による沿岸域低温化により、1982年以來の低水準にとどまり不漁。

タチウオ 春期黒潮系暖水の紀伊水道への貫入弱く水道内への来遊群はみられず、総じて不振。注目されたのは1984年、1985年秋産まれに由来する1<sup>+</sup>群（8、9月漁獲）及び1才群（12～2月漁獲）の好漁である。ことに1985年秋産群の生残良好。これらの群の発生時期はいずれも黒潮が接岸して温暖な年に当たっている。

シラス 7月まで紀伊水道は好漁を持続。しかし黒潮が強勢となった8、9月には平年並に減少。以後1985年のような秋期の高い漁獲はみられない。水道外域シラスは不漁。

サワラ 黒潮離岸年に好漁、接岸年に不漁の傾向がある。しかし、本年度は離岸年にもかかわらず不漁となった。資源自体が薄かったことと暖冬の影響が考えられる。

紀伊水道マサバ、マルアジ（釣）9月の黒潮離岸とともに紀伊水道マサバは激減したが、それまでの黒潮接岸で全体としてはまずまずの漁。マルアジにはマサバのような顕著な変化はない。

ヨコワ 夏期に新子の来遊みられず、冬期不漁。

ビンナガ 1986年2月には沿岸域へ大量来遊してきたものが、1987年は黒潮の離岸で来遊皆無。

カツオ 春期の黒潮水温が平年より1～2℃低目であったことと、黒潮の潮岬沖30裡内の小さきみな変動により19～21℃の釣獲適水温帯が沿岸域の広範囲に亘ってみられ、且つそれが3月下旬～5月上旬と長期に持続したことなどが原因して近年では最高の好漁年となった。

マアジ 1985年10月～1986年5月の黒潮接岸により大量発生。1そうまき網、棒受網、定置網等1986年級当才群漁獲は顕著な増加。

マルアジ 春期の黒潮の適度の離接岸により水道外域の魚群滞留は長期間に亘り、2そうまき網は過去最高の1985年と同じ高水準漁獲を維持。

マサバ 7月までは漁場水温低目、8月は夏枯れと前半は不振であったが、黒潮離岸前の異常接岸で9月前半に紀伊水道域に集群大きく、1974年以前に匹敵する秋の高水準漁獲となった。また、その後の黒潮反流形成など12月の熊野灘冷水塊安定までの間の激しい海況変化の過程においても間欠的な好漁があり、最近では最も高い漁獲となった。紀南域でも11月までの黒潮影響で沿岸域における潮境漁場形成が顕著で好漁持続。

ゴマサバ 本種は1そうまき網サバ類漁獲量中約50%を占めるが、上記黒潮による沿岸域潮境漁場形成で好漁。

ウルメイワシ 1そうまき網は1984年には及ばないまでも最近年としてはそれに次ぐ高い漁獲。また、紀南域の棒受網も漁期は11月までと長く、最近年としては最も水準の高い漁獲であった。

マイワシ 春期の大量来遊は依然として毎年みられるが黒潮の接岸により最近年のうちでは1985、1986年は低水準漁獲。

スルメイカ 8～11月の激しい海況変動により紀伊水道域は最近年としては1984、1985年を上廻り、まずまずの漁となった。枯木灘は不漁。熊野灘冬漁もまずまず。

ソーダカツオ 黒潮が熊野灘陸岸に沿って北上した10月、11月に来遊は活発化し、10月の漁獲は1985年のそれとともに過去20年来の最も高い漁獲となった。しかし、8、9月は黒潮の直進型接岸で、12～1月は大離岸といずれも熊野灘への黒潮系暖水の貫入はみられず不漁。

サンマ 主漁期の12～2月は黒潮の離岸（40～100裡）で不漁。

ブリ 黒潮の離岸で熊野灘定置網ブリ、ヒラマサは激減。メジロの入網は1986年に及ばないまでもかなり多かった。

その他 加太内海マダコ高水準。最近の内海高塩化と符合する。水道外域イサキ、黒潮接岸で不漁。秋期の黒潮異常流路により熊野灘クロサバフグの来遊多し。